慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	理念型的方法と社会システムの分析
Sub Title	
Author	二藤, 尊夫(Nito, Takao)
Publisher	慶應義塾大学大学院社会学研究科
Publication year	1984
Jtitle	慶応義塾大学大学院社会学研究科紀要 : 社会学心理学教育学 (Studies in sociology, psychology and education). No.24 (1984.)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	学事報告 : 学位授与者氏名及び論文題目 : 博士
Genre	Departmental Bulletin Paper
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN0006957X-00000024-0095

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

学事報告

学位授与者氏名および論文題目

修　士（昭和 58 年3月）

社会学修士（社会学専攻のもの）

第455号　神木　直子　日本における性の管理の歴史
第456号　川島　　真　筆跡とパーソナリティの関係についての実証的研究
第457号　上野　啓子　親と子の「日本人らしさ」の構造――〝菊と刀〟に基づく調査分析から
第458号　永田えり子　一般理論としての選択理論への展望――女性問題分析の枠組として
第459号　田中　孝栄　エミール・デュルケム研究
第460号　貞岡　陽介　パロール的行為の社会学・エスノメソドロジーの言説スタイルについて
第461号　沢谷　　豊　イデオロギー批判と科学
第462号　小野　雅子　ＰＲＴ（絵画空想法）による人間把握の試み
第463号　草柳　千早　行為あるいは意味――G.H.ミードにおける相互行為の社会学再考
第464号　大西　貢司　行為と身振り：後期G.H.ミードにおける社会性

文学修士（心理学専攻のもの）

第465号　杉山　尚子　デンショバトの複合刺激弁別における選択的刺激性制御の転移
第466号　松田　真幸　周辺視による認知情報処理

教育学修士（教育学専攻のもの）

第467号　植田　伸二　脱学校の教育と過程像志向の教育
第468号　伊藤　　寛　日本における大学通信教育の成立
第469号　安藤　寿康　遺伝――環境問題の概観と一実験
第470号　林　　共田　外国人留学生における日本語の表現の誤りに関する一考察――中国（台湾）人留学生を中心として
第471号　久田　　満　学業成績及び出席率を規定するパーソナリティ要因に関する研究――進学課程定時制の看護学生の場合
第472号　白井　勝美　教育者　緒方洪庵
第473号　角田多加雄　室鳩巣の思想と教育政策
第474号　仲　　論　80年代の学校教育
第475号　中野　隆司　幼児の推移律理解についての実験的研究
第476号　串山　隆治　洞察へのステップ
第477号　船田　　元　教科書検定をめぐる教育と政治の関わり合いについて
第478号　平岩　　緑　「会議指導論」

博　士（甲）

社会学博士

第684号　二　藤　尊　夫
理念型的方法と社会システムの分析

〔論文審査担当者〕

主査　慶應義塾大学法学部教授
社会学研究科委員，社会学博士
十　時　嚴　周

副査　慶應義塾大学経済学部教授
社会学研究科委員
高　橋　潤二郎

副査　慶應義塾大学文学部教授
社会学研究科委員，社会学博士
井　関　利　明

〔論文審査の要旨〕

二藤尊夫君提出にかかわる学位請求論文『理念型的方法と社会システムの分析』は，方法論編（五章）と理論編（五章）の計十章からなる。方法論編においては，「理念型」を方法として捉えることによって，社会学がよって立つ「方法論的基礎」を明確にしようとしている。理論編においては，グラフ理論，システム図，差分方程

式，微分方程式等の数学的表現を用いることに留意しながら，システム論的アプローチを社会学的研究に導入することの有意義性を証明しようとしている。そして，最後に，補論「福岡県の受療システム」においては，社会システム分析の具体的実証例を収録している。

本論文の基本目的は，言葉をかえていうと，C. G. Hempel を代表とする科学方法論に依拠しつつ数理的システム分析の枠組みを援用することによって，社会学の領域における新しいアプローチを提示することにある。本論文の前半に展開された「方法論編」の中心課題，つまり，20世紀前半における社会学領域の代表的な既存理論——ウェーバーとパーソンズ——の再検討は，その基本目的達成のための前提条件となっている。

本論文の骨子は，従って，次の5点に要約することができる。

(1) これまで論議のたえなかった多義的な「理念型」（ウェーバー）の概念を方法論的に再吟味し，——より正確には，ウェーバーとパーソンズのわが国における著名な研究者，金子栄一，富永健一の諸論考を批判的に検討した上で——いくつかの独自の定義図式を準備しておき，それらをサブ・システムとする一つの統合的な「分析概念図式」を新しく提示しようとしている。

(2) 提示した概念図式において，「理解の公準」と「説明の原理」，および，「意味連関」と「因果連関」の論理的整序を試みようとしている。

(3) システム分析の枠組みを構成するにあたって，F. Cortes たちが試みた差分方程式，微分方程式にもとずく数理的システム分析の社会科学への応用の跡をたどりながら，その数学的基礎を確定しようとしている。

(4) 構成されたシステム分析の巨視的モデルに立脚して，今日の社会学の重要課題である「社会変動図式」に新しい所見を加えようとしている。

(5) システム分析の「地域社会研究」への具体的な適用例を最後に提示しようとしている。

以上のように，本論文の基本点は，社会学上の重要な基本概念ならびに分析方法にかかわる論文提出者自身の見解の提示にみられる。

しかし，本論文に展開された見解は，基本的には，単なるアプローチの提示に止まる。具体的なかたちでの経験的な研究に転換する方途に触れるところが極めて不足しているのである。ただ，補論において，その具体的な展開の若干の萌芽がみられることは事実である。論文提出者は，数理的分析に強い関心を示すとともに計量分析にも並々ならぬ関心をもっている。産業医科大学・病院管理学教室で実施されている地域医療研究の一環としての地域社会分析では，主成分分析，クラスター分析等の多変量解析の手法をもちい計量社会学的な観点からの実態分析をおこなっている。そのデーターの処理，解釈はおおむね妥当であり，理論と実証の両面に行き届いた注意を払っている。その意味で，論文提出者は，システム分析の技法に習熟していることとあいまって，今後，実証的な研究をいっそう発展させることが期待されている。

本論文に展開された見解，特に方法論編において論述された見解には，1970年代以降の反数理主義，反計量主義の立場にたつ現象学，解釈学等のアプローチに対する論文提出者の関心の深さもあって，一部では知的柔軟性を示しながらも多方面にわたる知的関心の拡散によって論文自体の基調を著しく不透明にしてしまった点がみられる。むしろ，本論文の基本目的である数理・計量的システム分析の社会学への適用のみに考察を限定し，あらゆる夾雑物を排除していたら，本論文はさらに明晰なものになっていたであろうと思われる。

とはいえ，本論文は，二藤君のこれ迄の大学院博士課程における研鑽ならびにその後の産業医科大学助手としての研究成果を集約したものであり，同君がきわめて多様な可能性を秘め将来有為の専門研究者となり得る資質をもつことを示唆している。

従って，本論文は，研究者のスタートの地点で授与されるべき「課程による博士学位」の授与の要件を充足するに適わしい構想と内容をもつものと判断されるので，今回，同君に「社会学博士」(慶應義塾大学）の学位を授与することが適当であると考える。

社会学博士

第685号　藤　田　弘　夫

日本都市の社会学的特質

〔論文審査担当者〕

主査　慶應義塾大学文学部教授
社会学研究科委員
横　山　寧　夫

副査　慶應義塾大学文学部教授
社会学研究科委員，社会学博士
山　岸　　健

副査　慶應義塾大学名誉教授
文学博士
矢　崎　武　夫